

## V-Lowマルチメディア放送について

日経ラジオ社

V-Low に関しての考え方は 2011 年 2 月に回答した内容に変更はありません。

<概略>

- ・ 委託放送業者として所謂“音声優先セグメント”でのサイマル放送を前提に参加を希望。
- ・ 短波の全国向けコンテンツのサイマルであるが、当面は関東・近畿・中京のブロックを対象とし、1/6 セグメント程度の帯域を希望する
- ・ デジタルの利点を活かし有料放送の検討も予定するが、課金システムの独自開発には投資負担が重過ぎると予想している。ハード会社が顧客管理・決済機能を有するプラットフォームとなり、複数のソフト会社がそれを利用する姿が理にかなうと考えている
- ・ 災害時の対応は現時点では短波放送の運用と同様で考え、V-Low での具体的な方策は検討をしていない。ラジオ研究会で提言された「公的情報連携 ASP」のような共通の基盤がありそれを利用する形を希望する。
- ・ スマートフォン、タブレット端末、車載端末を想定している。所謂相乗り端末であり、端末そのものの普及はある程度見込めるものの、やはり魅力あるコンテンツが普及の鍵を握ると考える。

以上の観点から下記事項の回答をまとめる。

ハードの具体的な整備計画	当社は所謂“音声優先セグメント”での基幹放送事業者として参入希望をしており、ハード会社への出資などは現時点では検討していない。
ハードへの具体的な出資計画	
電波利用料についての意見	ラジオ局の場合 V-Low への参入はアナログを抱えながらとなり、双方の維持コストが負担増となる。加えて新メディアの V-Low 普及のための施策にも費用がかかることから、電波利用料は現在のアナログ同様の設定を望む
ソフトのビジネスモデル	現時点ではスポンサーからの広告料金の増額を見込む。 ただ、BtoC の課金モデルの事業も検討をしたい。 そのためにも V-Low 全体像の早期提示を希望する。
希望セグメント数	1/6 セグメントを予定しているが、短波放送第一・第二のサイマルに不足はないか、あるいは蓄積型放送を実施した場合の不足はないのかなど検討する必要があると感じている。

ソフトの参加	株式会社日経ラジオ社としての参加を想定しているが、東・名・阪で協力・連携できるのであれば、共同で1セグを確保するといったスキームも選択肢として排除しない。
端末普及のための具体的動き	具体的な動きはなし。 業界挙げてのキャンペーン展開に積極的に参加するほか、当社の強いコンテンツを混信や雑音がないクリアな音質を身近な端末で聴けることをPRすることが端末普及に繋がると考える 普及するまでの初期段階でV-Low番組のradikoでのサイマルも検討したい。
災害情報提供の具体性	全国を対象としている短波放送のサイマルを前提としている関係上地域を対象としたV-Lowの災害放送体制との整合性は難しい点がある。 「公的情報連携ASP」の構築などを見ながら、参加地域を対象とした防災情報をどのように編成できるかなどを今後検討する必要がある。
プラットフォームの機能・主体	有料番組の課金システムとして期待したい。 聴取者管理と決済関係がその機能であるが、ハード会社が開発・運用にあたり、ソフト会社がそれを利用するという形を想定している。

#### FM東京 マルチメディア放送の構想について

- ・ 具体的な提案であり、また端末の現状も紹介されV-Lowについてイメージがしやすい。
- ・ 市町村レベルの地域密着型と車載端末向けのドライバー向けに分けての展開と理解する。いずれにしても既存ラジオ局の参加を考慮している。
- ・ 市町村を最初から巻き込む場合、放送事業者へのインフラ提供や端末の配布などV-Low普及の大きな要素となる可能性を感じた。
- ・ 地域性の高いV-Lowではあるが、全国レベルの情報も確保する必要があるはず。それゆえ全国性の高い当社との共存も検討したい
- ・ 一方、ドライバー向け情報として音楽・交通情報を前提としているが、一般ニュースやライブ感あるスポーツ実況などにも高いニーズがあるはず。当社の株や競馬などもドライバー向けに有力なコンテンツであるゆえ、たとえばコンテンツ提供といった形での協業を模索したい。
- ・ マルチメディアルーターを端末にした双方向モデルが有力視されているようだが、課金システムなどプラットフォーム機能についてどのように考えているのかを知りたい。